

手書き 第2問

今日は、アジア地域開発という形でですね、このアジアを中心に日本との関係の中で今どんなことが起きているのかなんていうのですね、人材の観点等々から触れていきたいと思います。私は法政大学現代福祉学部の教員をしております佐野竜平と申します。どうぞよろしくお願いいたします。大学の教員であると同時に日本アジアの間をまたがって、障害分野に関わる様々な仕事もしている人間になります。どうぞよろしくお願いいたします。

では内容に入っていきたいと思います。まず突然なんですけど、そもそも今の日本に何が起きているかというのを突然聞かれたら。もちろん、いろいろなことが起きているんですけど、私が一番最近気になっているのがですね、外国の人材が日本に入ってくるそのスピードの速さになります。どういうことかという実はですね、昨年 2023年ですね、2070 年までに、あと 40 年以内ですか。なんと総人口の 1 割が外国人になるというニュースが出されました。2070 年には人口が今よりも減ってですね、8700万人ほどになるのですが、そのうちの 1 割が外国人と。これをどう受け止めるかという、私みたいに日本と海外を行き来する人材からすれば、とても気になるニュースということになります。その背景をですね、きちんと押さえていくことが、やはりポイントなのかなというふうに考えています。

その人口の 1 割が外国人になるということなんですけども、このアジア全体もですね、やはり見ていく必要があると思います。いわゆるアジアが変化しているわけですね。その変化のわかりやすさの 1 つがいわゆる高齢化のスピードになると思います。高齢化というと高齢化社会ですね。人口の 7%。あるいは高齢社会。人口の 14%。そして超高齢社会ですね。人口 21%。この辺りにどのくらいのスピードで到達するかということが 1 つの指標になると思いますが、日本はかつて速いといわれていたんですが、それをですね、さらに飛び越えていくつかの国々で、もっと速いスピードで動いているということになります。中国やタイや韓国。その動きと相まってアジアの人口がですね、今も増えてはいるんですが、2055 年にはピークを迎え、そしてアフリカですね、さらに増えていくと。こういった世界の情勢が変わっていく中で、アジアをどう捉えるかということになります。

農村と都市のバランスは、どうなっているかということなんですけど、これもなかなか難しいところがあるんですが、いわゆる農村と言うものに比べて、都市化ですね、都市がですね、どうしても広がってきていると。

これは何を持って都市化というところの論点はあるものの、都市部の人口が増えているというのが、今のアジアの最新の傾向になります。となるとですね、やはり都市化が進んでいる、そして、人口の状況が変わってきている。そのアジア、その日本の関係をですね、見ていかないと、この人口の 1 割が外国人というところの本質が見えてこないと。

実質的な賃金もあのアジア諸国はですね、やはり以前に比べてはるかに上がってきています。そして海外に移住する日本人もですね、これもまた右肩上がりが増えていくと。

その一方で、日本人の英語力がですね、これは相対的なものでもあるんですが、以前に比べると世界中でもはるかに、まあ、あの低迷していると。こういう変わりゆくアジアの中で、日本の今の現状をどう捉えていくか。そういったところが外国の方とのお付き合いのポイントになると考えています。

やはりコロナですね、あのコロナになって様々な課題が浮き彫りになったと言うふうに考えていますが、その中の1つがオンラインの利用の工夫ですね。日本はもちろん先進国の1つと言われながら、オンラインはどうだったか、というと、例えば私みたいに大学の教員であれば、遠隔授業なんかもたくさんあったんですが、実はその遠隔授業の実施率なんかは、多くのアジア諸国に比べて日本は少なかったとも言われています。遅れているとも言われています。その一方で東南アジア諸国の、このインターネットを通じたビジネスなんかは、ものすごい勢いで増えているわけですね。通信の利用の仕方が大きく変わってきている、といった点も外国の人とのお付き合いの仕方では捉える必要があると思います。